

海外拠点の未来を担う、若き2人のインドネシア人。働きやすさが、高度外国人材の2人の才能を飛躍させる。



工業用品事業本部グローバル開発・設計・技術グループ  
**プトリディア・ルピタサリ** (24才)  
PUTRIDIAH LUPITASARI

●インドネシア出身 ●スラバヤ工科大学出身  
●入社1年目 ●担当業務:ゴムの配合・形状設計

工業用品事業本部グローバル開発・設計・技術グループ  
**ステファノ・クリストフォルス・セバステアン** (26才)  
STEFANO KRISTOFORUS SEBASTIAN

●インドネシア出身 ●バンドン工科大学出身  
●入社3年目 ●担当業務:自動車シール部分の設計

### まずは顧客中心のものづくりの体得から。成長めざましい頼りになる存在。

自動車で利用されるゴム製品を主軸に、工業用ゴム製品、シューズ、合成樹脂製品の製造・販売を行う広島化成株式会社。2016年に同社はインドネシアに子会社を設立、様々な事業が進む中で、インドネシア人の高度外国人材として大きな期待のもと採用されたのが、入社3年目のステファノ・クリストフォルス・セバステアンさんだ。「インドネシアの人は、どこか日本人に似ています。働き者で、生真面目。日常の業務だけでなく、実習生への通訳が必要な時でも、快くサポートしてくれる。頼りになる存在です」と、工業用品事業本部取締役本部長の田丸知宏氏。現在自動車シールの設計を担当するセバステアンさんだが、入社当初から、クライアントとの打ち合わせに参加しているのだという。「お客様の顔を見て話を聞き、自分の目で見ることからこそ気がつくことがある。それがその後の仕事に生きてくるし、本人のモチベーションにもなります」と、田丸氏。今後のインドネシアでの事業展開に必要な人材だからこそ、「クライアントの要望と当社の技術の『すりあわせ』を徹底的に行うことが素晴らしいプロダクトを生む」という同社の顧客中心のものづくりの姿勢を、技術者としてしっかりと体得してもらったのだという。

入社の動機を聞かれたセバステアンさんが「会社訪問に行ったら、皆がフレンドリーだったから」と即答するほど、社員同士のコミュニケーションを大切に、上司部下の間でも風通しの良い風土を持つ同社。気負うことなく質問できる環境が、現在は2人に増えた高度外国人材の働きやすさに直結している。「元々理解度が高いので、今では弊社のものづくりの姿勢を、アウトプットとしてプロダクトに落とし込むことができるほど成長してくれました。今後はインドネシアでの新規事業やマネジメントでも、日本人社員と協力し合い、今以上に力を発揮してくれると楽しみにしています」。

### 熱中在工作にした、ふたりのインドネシア人高度外国人材。次の夢はイノベーション。

#### ●「日本人にとっての仕事は、人生そのもの」。日本で働くことで醸成された、仕事への責任感と情熱。

「セバステアンさんは、休みの日もずっと家でCGを作ってるんだよね」と田丸氏から声をかけられるほど、デザインとプログラミングに熱中しているセバステアンさん。「エンジニアリングの国、日本」で新しい技術を学ぼうと留学したのが広島大学大学院だった。大学院ではディープラーニングを主に研究したが、専門は機械システム。製品のスタート地点から立ち会い、製造までつなげていくという作業は「おもしろい」の一言だという。「お客様の希望も技術のこともしっかり理解していないとできないのが、設計の仕事です。デザインはしたけれど製造はできないでは、意味がないですから」と、「すりあわせ」を常に意識しながら設計を行う。最近では新プロジェクトの設計担当にも任命され、生き生きとその実力を発揮中だ。

「相談すればすぐに一緒に解決してくれるので、苦労は無いです。働きやすい」と語るセバステアンさんだが「皆が楽しそうに働いている」と形容したその一方で、「『ワーク・ライフ・バランス』という言い方をすれば、日本では『人生と仕事』が混ざりあっている」と鋭い観察も。「日本人にとって仕事は人生そのもの。だからこそ、そこに大きな責任感が生まれ

る。」とセバステアンさん。顧客とのコミュニケーションをとりつつ、技術職として業務をこなしながら、社員のマネジメントまでも行う上司の姿には、とりわけ尊敬の念を抱いているという。

同じインドネシア出身の後輩もできた。入社一年目のプトリディア・ルピタサリさんの専門は、化学工学。天然ゴムが主要産業のひとつであるインドネシアの人にとって、ゴムは身近な素材。「そのゴムの配合をいろいろ試すことができるなんて、化学者として最高の仕事だと思いました」と入社理由を語ったほど。現在は日々ゴムの配合に熱中しているのだという。「でも、どうしても朝のラジオ体操が覚えられなくて・・・」と恥ずかしそうに付け加えたルピタサリさん。先輩・セバステアンさんからの「ぼくもそうだった!でも、覚えるよ!」という即座のフォローに安心した笑顔を見せた。



#### ●才能ある高度外国人材が語るイノベーションへの熱い思い。

セバステアンさんの今後の夢は、顧客の要望と製造をつなぐ設計という役割からさらに一歩進めた「カイゼン」を行うことだという。「プロトタイプングでの試行錯誤を減らし、より開発コストの削減を進めたい。また、3Dプリンターも導入されたので、今までは製造できなかったようなデザインのものも、設計してみたい」と、セバステアンさん。「今までに無い、新しいゴムの配合を考えたい」とルピタサリさん。グローバルな未来を担うふたりのインドネシア人「財」は、技術者として広島でさらに飛躍を続ける。



管理本部 総務部 大原 慎次氏  
ルピタサリ氏  
セバステアン氏  
工業用品事業本部 取締役本部長 田丸 知宏氏

#### 企業メッセージ

少子高齢化が進み、自社の希望に見合う人材を国内だけでは見つけられないのが今の日本の現状です。弊社では、活躍をしていただけるなら雇用を多様化すべきだと考え、高度外国人材を採用するようになりました。働きやすい環境を整え、しっかりと根づいてもらうことで、海外拠点での頼もしい存在として、日本人社員に刺激を与え、社の未来を担う存在として活躍してくれると思います。